

令和七年度入学試験問題（学校推薦型選抜Ⅱ）

小論文

人文社会学部 琉球アジア文化学科

注意事項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は、必ず解答用紙に記入すること。問一は表面、問二は裏面に書くこと。
- 三、解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
- 四、解答時間は、一二〇分である。
- 五、縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

非公開

問 題

次の文章を読んで、以下の各問に答えなさい。

非公開

非公開

非公開

非公開

(モーター・H・クリスチャンセン、ニック・チェイター著、塩原通緒訳『言語はこうして生まれる 「即興する脳」とジェスチャーゲーム」、新潮社、二〇二二年、一七一〜一七八ページ、抜粋・一部改変)

問一 二箇所の傍線部「言語が繰り返し学習され使用されるうち、文法化の整理作用を通じて部分的に組織立ったパターンが言語構造にもたらされる。」「言語の進化は文法化を中心とした言語変化のもろもろのプロセスに駆り立てられつつ、人間の脳の限界と人間どうしの相互作用のありように手綱を締められている。」について、以下の問いに答えなさい。

① 「文法化の整理作用」とほぼ同じ意味の箇所を、この傍線より前の部分から抜き出して書き、どのようなことか説明しなさい。(二〇〇字以内)

② どのような過程を経て「言語構造」が成立していくのか、本文に即して述べなさい。(四〇〇字以内)

問二 波線部「言語は脳によって方向づけられる——その逆ではない」とあるが、何故、逆ではないのか、本文に即して答えなさい。(六〇〇字以内)

令和七年度入学試験問題（学校推薦型選抜Ⅱ）

小論文

人文社会学部 琉球アジア文化学科

出題の意図

琉球アジア文化学科は、アドミッションポリシーとして、琉球・沖縄、日本、中国大陆、台湾、朝鮮半島などのアジア文化圏における言語、文学、歴史、民俗などに強い関心と学習意欲を持ち、地域による文化の違いと類似性に目を向けつつ、主体的・積極的に研究できる学生を求めている。したがって、本学科の入学希望者には、これら諸地域の文化への深い関心はもとより、そうした文化を生み出す社会の仕組みへの持続的な探求心と、根拠ある主張を論理的に展開できる力が要求される。問題文は、モーデン・H・クリスチャンセン、ニック・チェイター両氏の共著で言語がどのようにして生まれ、構造化されていくのかということを探った文章である。それに関して「言語はジェスチャーゲーム（言葉当て遊び）のようなものだ」という主張をしており、言語生得説に真っ向から反論をしている。本出題の意図は、言語というものの即興性とそれを経たうえでの文法化、構造化という過程を理解し、言語の文法の安定化した規則性が、出発点ではなく結果であるということを読み取り理解し得ているかを問うている。それを通して、言語と社会、人間同士のコミュニケーションを考えるうえでの感受性・共感能力・理解力について論述させ、受験生の理解力および独自の発展的な思考力や論理構成力、言語表現力などをみる。